


地方県の産科診療所（一次施設）の 現状について

妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会資料
2024.11.13

公益社団法人 日本産婦人科医会 副会長
医療法人社団安津会 前田産科婦人科医院 理事長
前田津紀夫



静岡県産科医療機関

静岡県二次医療圏と属する市区町村

医療圏名								
賀茂	下田市	東伊豆町	河津町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町		
熱海伊東	熱海市	伊東市						
駿東田方	沼津市	三島市	裾野市	伊豆市	伊豆の国市	御殿場市	函南町 清水町	小山町 長泉町
富士	富士市	富士宮市	芝川町					
静岡	静岡市	(駿河区・葵区・清水区)						
志太榛原	焼津市	藤枝市	島田市	牧之原市	吉田町	川根本町		
中東遠	磐田市	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町		
西部	浜松市	(中区・東区・西区・南区・北区・浜北区・天竜区)	湖西市	新居町		*青字： 一次施設	*赤字： 高次施設	

静岡県概要

人口：360万人

面積：7777km²

東西：155km

出生数：2万1772人

分娩施設

総合周産期センター 3

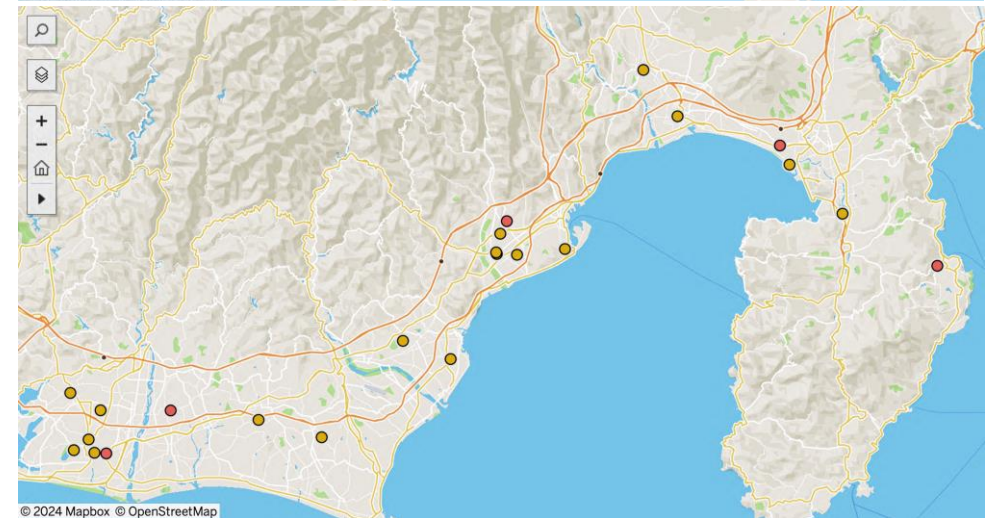
公的・公立病院 15

開業医（1病院含） 32

二次医療圏 8

右地図（上）：診療所

右地図（下）：病院



静岡県二次医療圏と分娩施設

医療圏名		総合周産期		地域周産期		周産期指定なし		有床診療所
賀茂		0		0		0		1
熱海伊東		0		0		1		2
駿東田方		1		1		1	私的病院	8
富士		0		1		1		3
静岡		1		2		3		2
志太榛原		0		2		0		5
中東遠		0		1		2		6
西部		1	私的病院	3	うち私的病院1	2	うち私的病院1	5

静岡県産科有床診療所について

平成8年 114 施設

平成20年 56 施設

平成28年 47 施設

令和5年 35 施設

令和6年 31 施設



前田医院の沿革と医師の実務、現状

前田産科婦人科医院の沿革と現状

静岡県焼津市

現理事長（前田津紀夫）が平成5年に近隣の周産期センターから独立して開業

32年間で約2万3000人の分娩に関与

令和5年の分娩数は529件

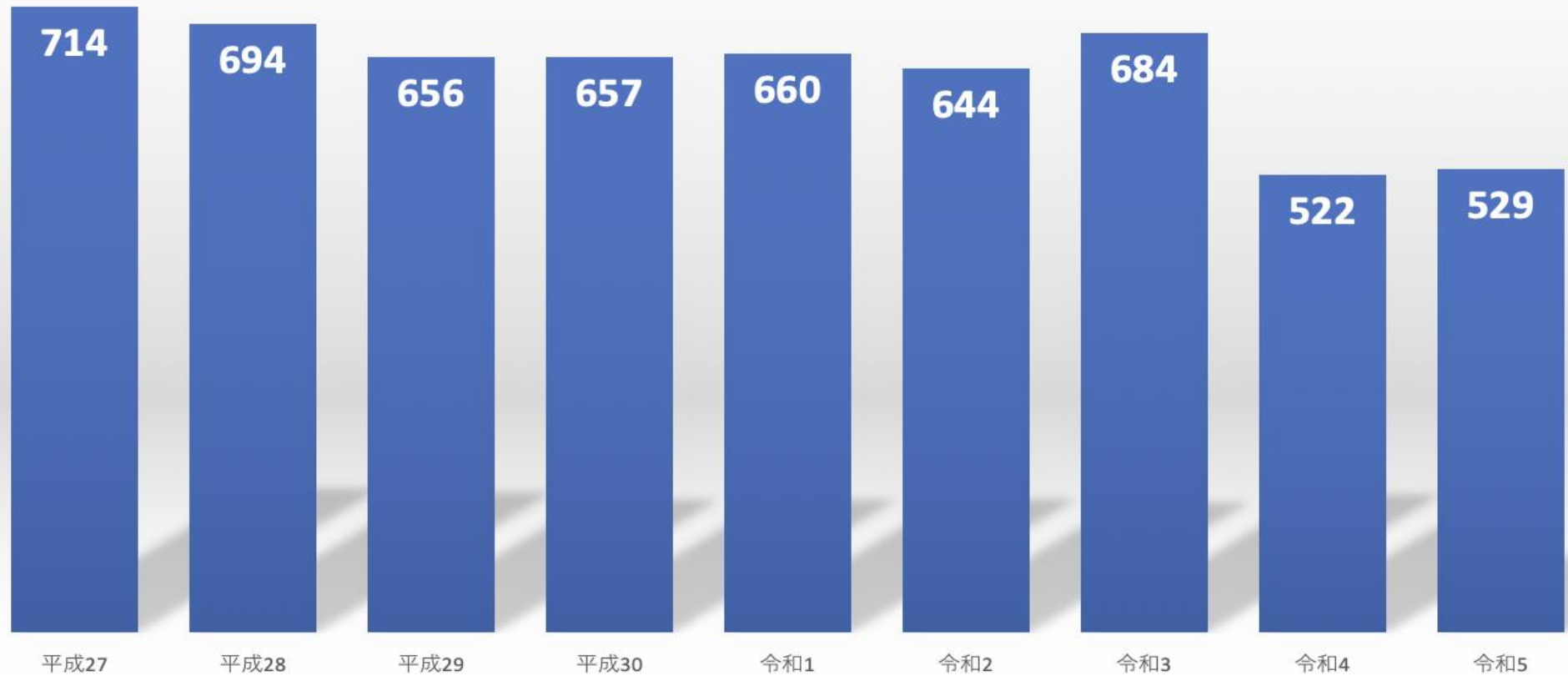
17床の有床診療所（個室：7床、3人部屋：6床、LDR：4床）

3床の助産院を併設（主として産後ケア、授乳相談等）

常勤医1名（前田津紀夫）。13名の非常勤医とともに365日24時間常勤換算で2.7名の医師が常駐。

助産師・看護師総計19名、その他の職員を含め約40名

前田産科婦人科医院分娩数年次推移



前田津紀夫の開業までの背景

昭和31年生まれ、68才

本籍地：京都府宮津市

父親は商社マンのため小学校は西独、帰国後大阪府豊中市、兵庫県神戸市で育つ

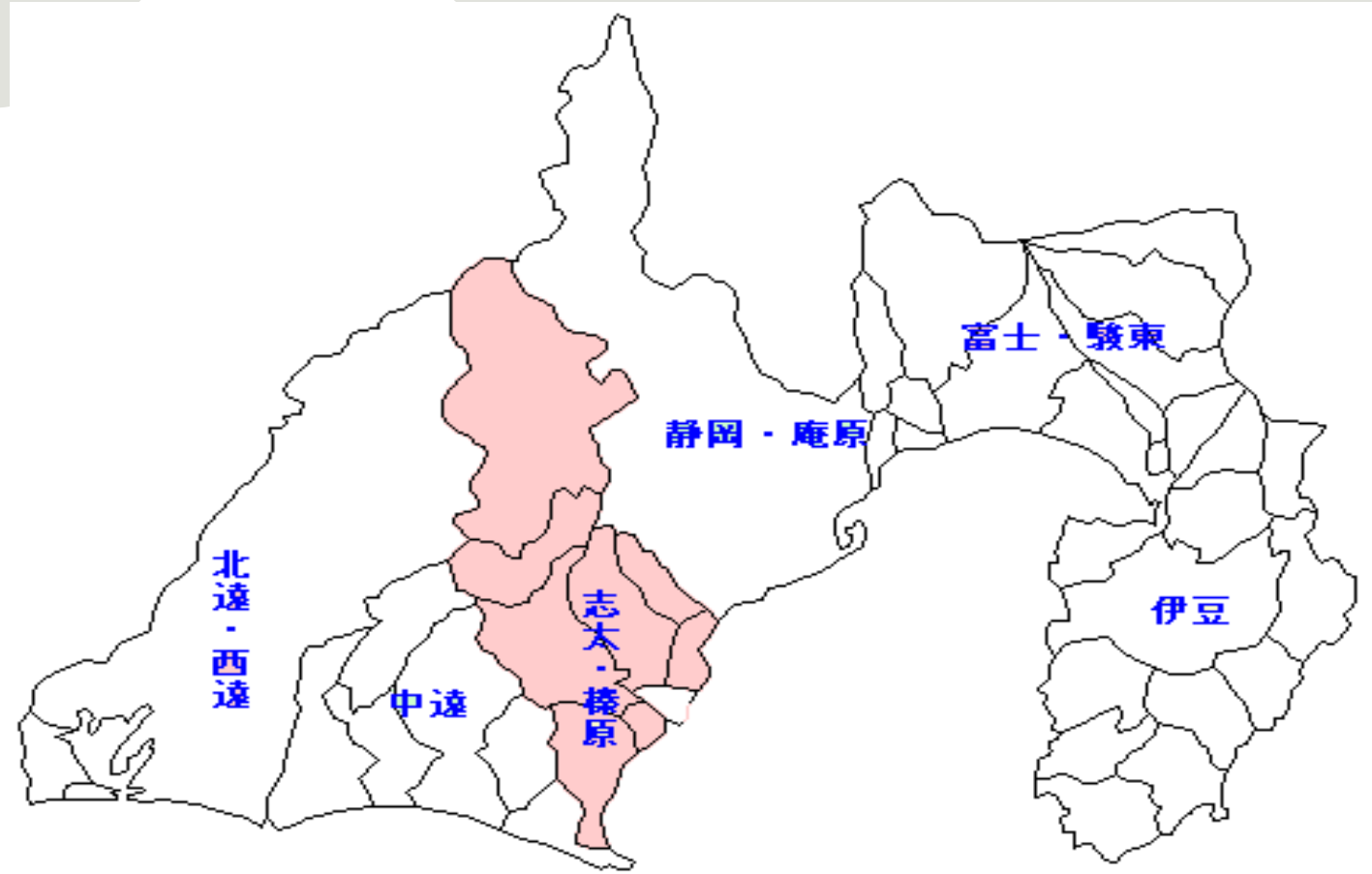
東京の大学医学部を経て、大学病院、神奈川の関連病院を経て、医局の人事により静岡県藤枝市の藤枝市立志太総合病院（名称は当時）へ赴任（地域周産期センター）

平成3年頃西焼津で開業していた医師が急死（分娩数が600件程度）され、妊婦さんの多くが私の病院へ移ってこられ、藤枝市立志太総合病院の分娩数が急増し業務に多大な支障が生じた。

あらためて地域で分娩を担う開業医の大切さを痛感

遺族に請われ病院を辞し継承・開業を決意

前田産科婦人科医院が所属する 志太・榛原二次医療圏



前田産科婦人科医院全景（平成25年新築移転）



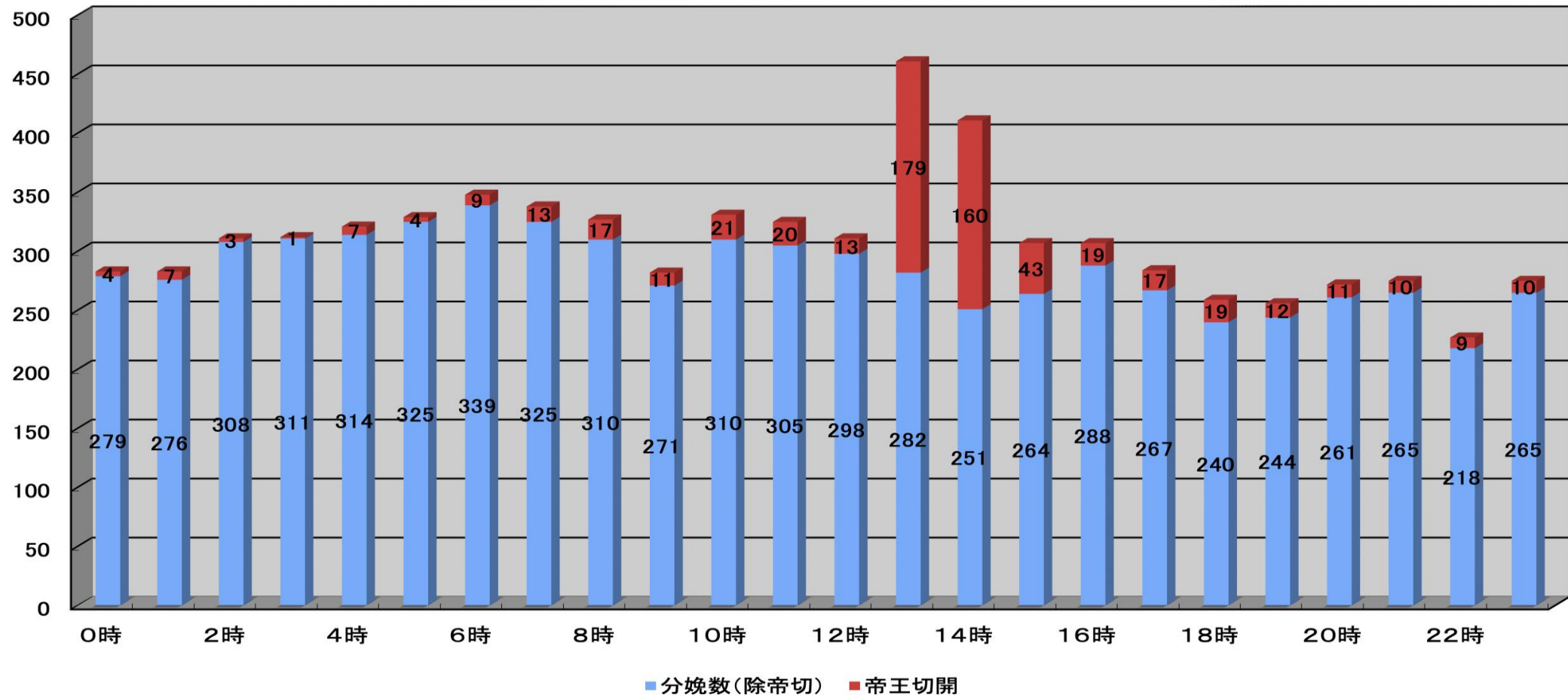
前田産科婦人科医院の外来や手術の流れ

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
午前外来	前田	前田	前田	前田	前田	前田
		非常勤医	非常勤医	非常勤医	非常勤医	非常勤医
午後外来	前田	産婦健診（前田）		非常勤医	産婦健診（前田）	

選択的帝王切開は火曜・金曜の午前または水曜の午後に行う。緊急帝王切開は随時行う。人工妊娠中絶手術や流産手術、小手術は昼休みに行う。分娩は原則的に前田が立ち会う。当院の分娩の90%を前田が立ち会う。

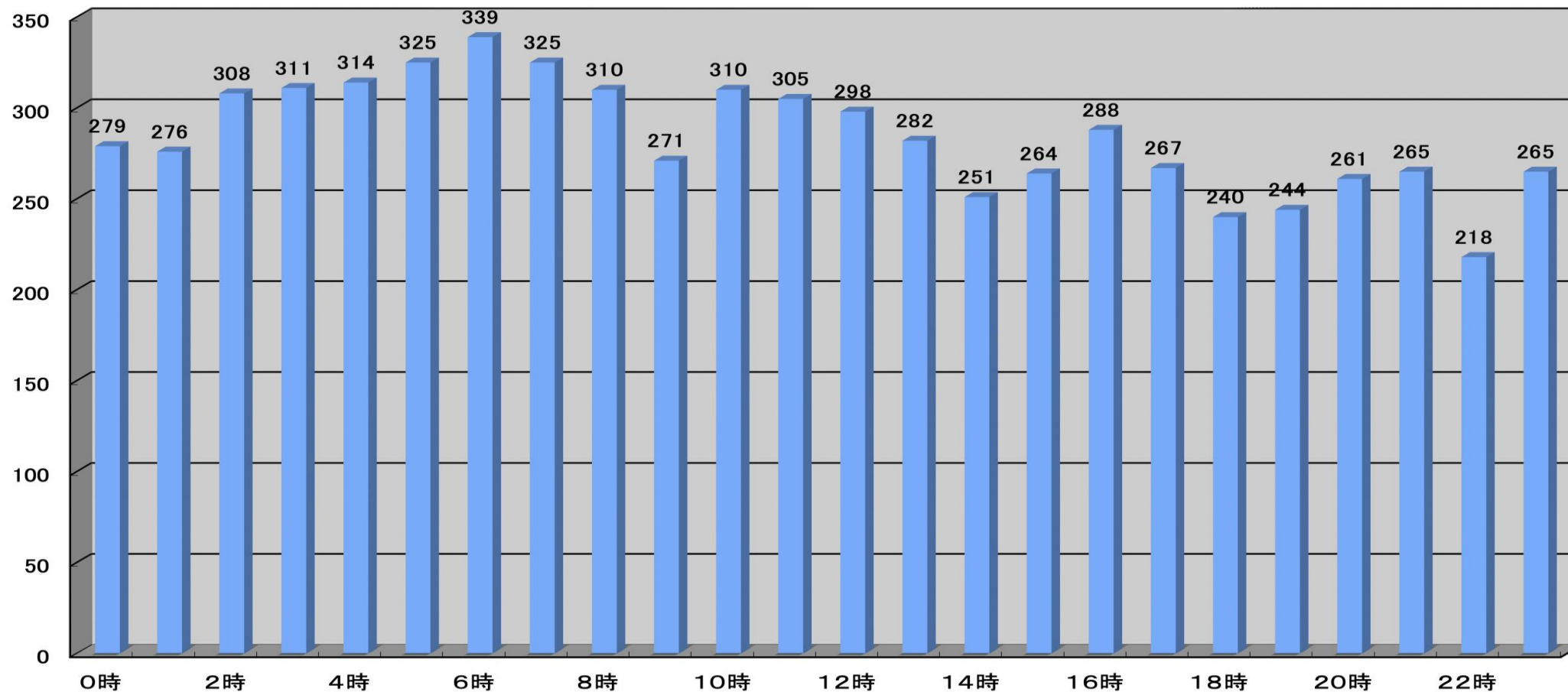
前田産科婦人科医院における時刻別分娩数 (2001~2010)

前田産科婦人科医院における時刻別分娩数



前田産科婦人科医院における時刻別分娩数 (2001~2010) 帝王切開を除いて補正したもの

前田産科婦人科医院における時刻別分娩数(帝王切開を除く)



深夜帯（22時～6時）の分娩等の業務

分娩の38%が22時から6時の間に行われる

10日に7.2日の割合で夜の眠りを中断される計算となる

（夜間の救急外来の患者さんも一定数来院される）

分娩監視装置（CTG）

- 分娩進行中の妊婦は分娩監視装置を装着し胎児心拍を監視する（胎内で児の状態が悪化していないかどうかを監視する）
- フルモニタリングが一般的(保険点数化されていない)。
- 当直医はこれを当直室で監視し、院長は出先でインターネット上で監視する。

前田産科婦人科医院の収支の現状

令和4年頃から分娩数が減少し令和3年度決算から赤字経営に転じている

経常利益：令和4年度 △1779831円 令和5年度 △68741240円

分娩数の減少の原因：

- (1) 少子化による自然減 (2) コロナによる産み控え
- (3) 無痛分娩指向 (東京からの里帰りが減少、遠くても無痛分娩のため施設をかわる妊婦さん)

現状では看護職員が退職しても補充ができず、サービスの質が以前より低下している実感あり

このままでは産科から撤退せざるを得ない現状



助産師等医療スタッフの活動 と産後ケア

助産師等による指導・活動

- 妊婦健診における保健指導
- 母親学級・両親学級
- メンタルヘルスケア（産婦健診等におけるエジンバラ産後うつ病質問票等）
- 産後の子育て支援、授乳指導や乳房ケア
- 隣接する産後ケア施設（繭のいえ助産院）での活動
- 退院した後の産婦の電話への対応（かなり頻繁）

当法人の産後ケア事業への対応 (繭のいえ助産院・前田産科婦人科医院)

- (1) 産後ケアを充実させるため医院に隣接した助産院を開設した（繭のいえ助産院）。
- (2) 繭のいえ助産院は医療法人の内部組織であり理事長は医院と共通。
- (3) 妊婦健診や分娩は主として医院で、産後ケアは主として助産院で行う。
- (4) 医院は助産院が対応出来ない産後ケアについても必要に応じて援助を行う。



二次医療圏における病診連携、診診 連携

志太榛原二次医療圏における病診連携・診診連携

- ・ 1993年には4病院、21診療所が分娩取扱い→現在は2病院5診療所
- ・ 病診連携...スムーズな搬送体制を構築するために顔の見える関係づくり
- ・ 診診連携...大学からの非常勤医を頼みにくい診療所のために帝王切開を助け合う関係づくり

志太榛原4郡市産婦人科懇話会

昭和62年島田市民病院・焼津市立総合病院・藤枝市立総合病院・榛原総合病院 各部長の話し合いでスタート

年に4回の会合と勉強会

年末に忘年会

現在は2病院と開業医が持ち回りで幹事を行うスタイルに

藤枝市立総合病院周産期ミーティング

毎週木曜日PM5:00より藤枝市立総合病院において小児科と産婦人科のカンファランス

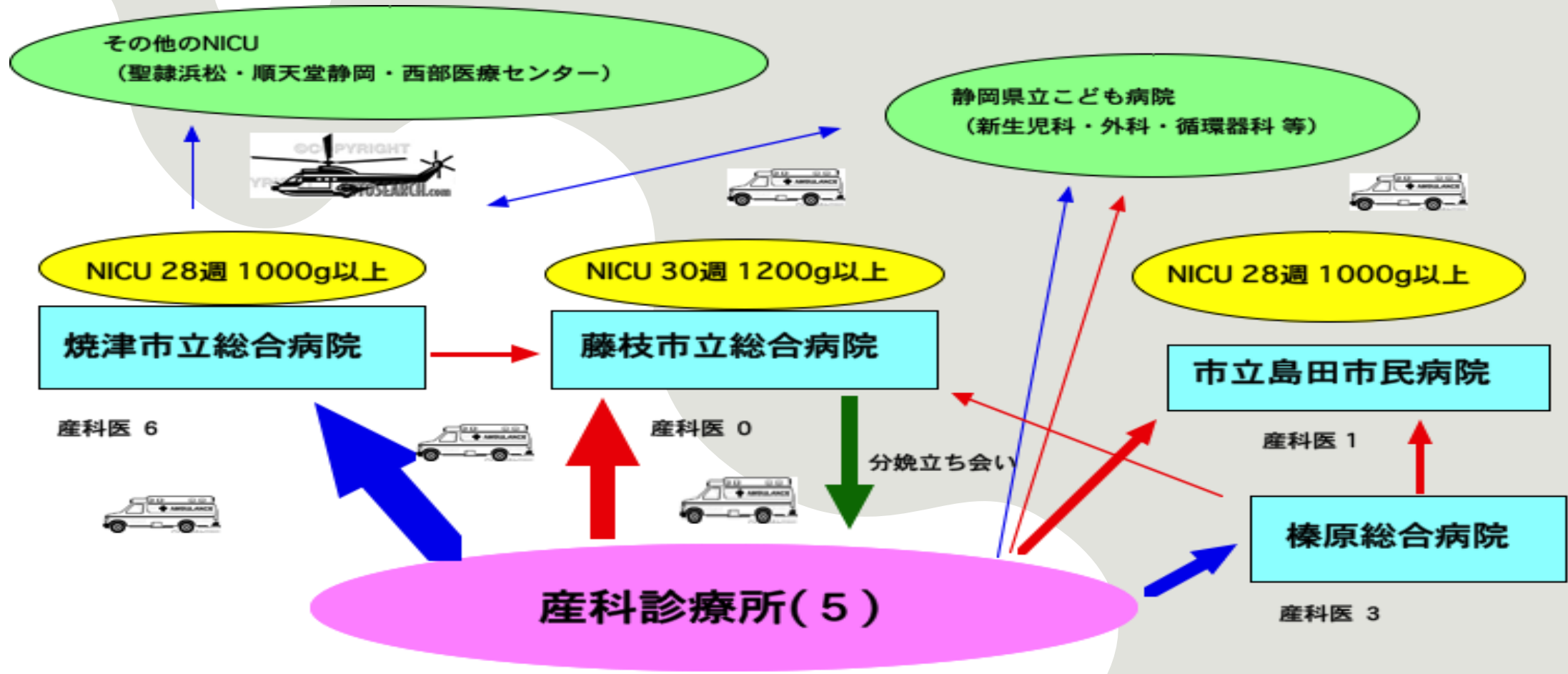
開業医・看護職員・市の職員も加わる

NICU の状況を知らせるFAX が各開業医に届く



各開業医も自分の抱えている問題症例をFAXにて報告する

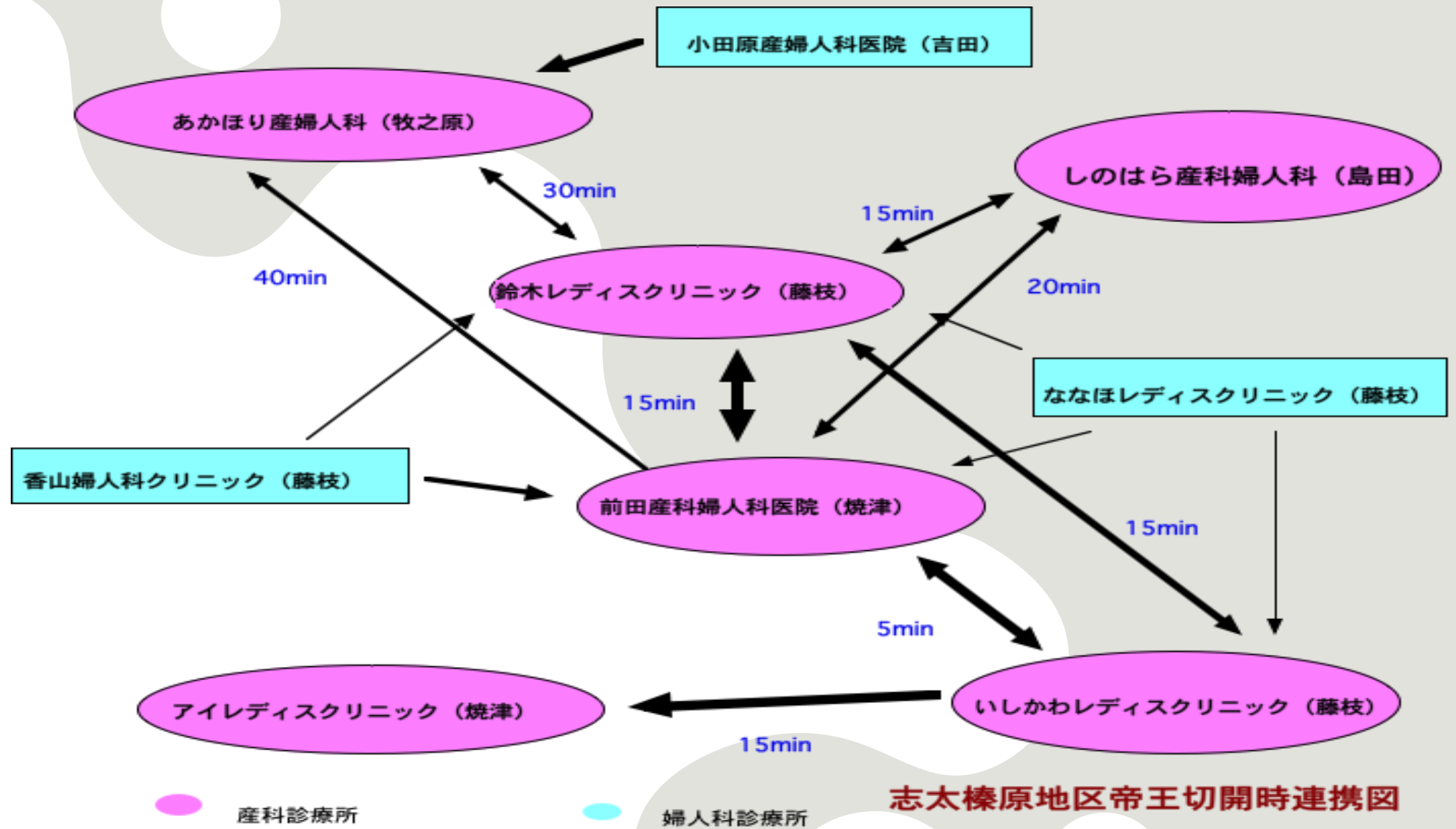


志太榛原周産期カンファランス
病院の産科医、小児科医、助産師、看護師の他に産科診療所の医師全員が参加する



志太榛原地区の新生児搬送 2008年

 新生児搬送
 母体搬送



緊急帝王切開における診診連携と小児科医立ち会い風景



2008.6.30

藤枝市立総合病院の産科引き上げ問題

浜松医科大学が産科医4人を引き上げ

分娩数:734(2007)

小児科医:8名、NICU:10床

麻酔科医:常勤1名

常勤助産師:20名

* 地域周産期母子医療センター

ふだんより他施設との病診連携、診診連携を行っていたためなんとか乗り越えた。



産科開業医はこのままではなくなり
ます

産科開業医の悪いイメージ

- 医療レベルが低い
- 金儲け主義

(小説：白い巨塔の財前又一医師)

- 豪華なフランス料理、エステ

(個人的には悪いこととは思いませんが)

- 便乗値上げ
- 医療事故

産科開業医の長所

- ・ベテランが多い。むしろ高次施設の一線にいる医師より技術力は高いケースも多い。
- ・ローリスクの妊婦を大切に扱う。
- ・重点化された高次施設に比べてアクセスが良い。
- ・家庭医として妊娠前から産後まで家族ぐるみで関係が作られる。

(当院の30才以下の妊婦の約20%が当院で生まれている)

- ・産後ケアに対応しやすい。(高次施設では手が回らない。)

分娩費用の保険化は産科開業医の息の根を止めてしまう可能性がある施策である

- ・ 産科開業医は医師の中でも厳しい職種である。

(夜中に予告なく起こされる。365日24時間気が抜けない。原則的に職場を離れられない。)

- ・ 厳しさ故に後継者は減少している。
- ・ 一方で社会に対する貢献度は非常に大きい。
- ・ インセンティブがないと減少する一方である。
- ・ 優遇こそ考慮されても良い中、実際には数々の逆風にさらされてきた。
- ・ 分娩費用の保険化が実行されると産科開業医の生き残りに決定的なダメージを与える可能性がある事を危惧する。